

ノボル鋼鉄

静岡支店の熱処理センター

大型リフレッシュ投資

ノボル鋼鉄（社長・三上聡彦氏）は、今期（2017年6月期）

から5カ年計画で静岡支店・熱処理センターの大型リフレッシュ投資を実施する。静岡支店は業容の拡大から建屋が手狭となり、将来にわたり品質安定化を図るには老朽更新も必要になっている。新工場を建設して効率的レイアウト構築や新規設備導入を一気に進めるか、現在地で段階的に建て替えや新規設備導入を進めるか、どちらかの方法で拡張・新鋭化投資を行う。

同社は昨年10月に創立70周年を迎えた大手特殊鋼問屋。機械加工では14年12月に小型・精密金属部品加工の子会社、ノボルエンジニアリングの操業を開始。自社拠点では福島テクニカルセンターに加えて15年3月に宮城テクニカルセンターを完成。自社、ノボル精密を中心とするグループの機械加工体制を一段と強化した。

静岡支店・熱処理センター（静岡市駿河区）は熱処理加工の中核拠点。1966年に静岡営業所・倉庫を現在地

に移転、71年に熱処理加工も開始し、土地、建屋を順次拡張してきた。機械加工部門の大型投資が一巡したのに続き、熱処理部門でも将来に向けた基盤の整備・拡充を進める。

最近でも真空洗浄機や電子顕微鏡の増設など新鋭化投資は行っているが、新立地での大型リフレッシュとなると少なくとも十数億円もの投資規模になる。補助金活用を含めて投資負担を見極めながら具休案を詰め、5年計画で投資を実行する。

16年6月期
単独決算

経常減益4300万円

ノボル鋼鉄の16年6月期単独決算は売上高58億8600万円前期比4・6%減、経常利益4300万円同54・7%減、純利益2700万円同68・6%増。

厳しい事業環境に加えて、静岡支店の一部業務をノボル精密に移管して減収。売上げ減と宮城テクニカルセンターの人員増、70周年関連の経費増などで経常減益。前の期は同センター完成に伴う大幅償却を行っており、この反動で純益増。

今期は売上高60億1千万円、経常利益1億円の見通し。